

【ご案内】

「家庭科の授業を語る会（第204回）」の開催

連日の猛暑で、農作物の生育も心配されるところですが、皆さん、この暑さで体調を崩していませんか？ 夏休みまであと一息です。無理をしないで身体を休め、この夏を乗り切ってください。

さて、第204回の「家庭科の授業を語る会」では、吉田先生が小学校での題材「大切な物とお金」のどの時間においても、自分の生活を見つめ直し振り返ることのできる授業について、話題提供して下さいます。子ども達がどのように自らに学びを引き寄せて深めていったのか、その過程を振り返ってみましょう。今回は、**対面とオンラインのハイブリッド開催**ですので、久しぶりに大学で皆さんにお会いできることを楽しみにしています。遠方の皆さんは、オンラインを活用いただいて、どうぞお気軽にご参加下さい。

- 日 時 : 2025年7月19日(定例の第3土曜日) 午後2時から午後4時
- 場 所 : 宮崎大学教育学部 技術・家庭科棟 T211教室
Zoomでのご参加は、下記のアドレスに接続下さい↓
<https://us02web.zoom.us/j/82555748274?pwd=PGhkoWy4Nff2eigG9GYazWimO5rYa5.1>
○ミーティング ID: 825 5574 8274 ○パスコード: 1Bbg6u
- 話 題 : 小学校・消費生活領域における課題設定
- 話題提供者: 吉田 舞（都城市立南小学校）

「家庭科の授業を語る会（第203回）」（2025年6月21日）の報告

○話 題 : 家庭科の学びにおける“意味の変化”を考える

○話題提供者: 瀧元有理（元北海道大学教育学院）

第203回の家庭科の授業を語る会では、瀧元有里先生に「家庭科における“意味の変化”」について話題提供していただきました。

今回は、家庭科の授業で生まれる「よさ」をはじめとして、“意味の変化”が起こる時の教師の在り方や教材について実践をふまえながら紹介していただきました。なかでも、特に印象に残ったのは、“意味の変化”は教材だけでなく、教師と生徒の関係性においても起こると述べられていた点です。瀧元先生が参観された授業で、座学では伏せて寝ていた男子生徒が、次の裁縫の時間ではわからない点を先生に自ら質問に行く姿が見られ、またその先生が「玉止めの裏技があるよ!」と紹介すると目を輝かせて注目する生徒の様子が見られたというお話がありました。指導案上だけではその授業が良いかどうかかわからず、子どもたちの反応や状況をふまえて発問や指導を行い、それによって子どもと教師の間に学びが生まれてくるのだということを学ぶことができました。

教材だけでなく教師と生徒の関係性の中で、その授業や学習内容の意味を見つけられるような声掛けや手立てを考え、実践していきたいと思います。ありがとうございました。（文責：松田）

連絡先：家庭科の授業を語る会（事務局）

〒889-2129 宮崎市学園木花台西1-1 宮崎大学家政教育講座内

伊波 富久美（大学院教育学研究科）：Tel/Fax 0985-58-7539（直通）

：メールアドレス e09101u@cc.miyazaki-u.ac.jp

●「家庭科の授業を語る会」のホームページ：<https://cms.miyazaki-c.ed.jp/ssc074/htdocs/>